

地域を担う「人」を育て、地域が良くなる「仕組み」をつくる

NPO法人コースター 代表理事 羽鳥 圭

ビーンズ通信を読まれている皆様、はじめまして! NPO法人コースター代表理事の羽鳥と申します。私たちコースターは郡山市を中心に、「地域を良くする担い手の育成」と「その担い手が活躍するための社会基盤の整備」を団体の目的に掲げ、様々な「研修」と社会課題を解決するための「仕組みづくり」を行っています。

私自身震災前は東京のコンサルティング会社で働いており、友人の縁でその頃から、ビーンズのみなさんや郡山の若者たちと様々な活動をしてきました。震災・原発事故後は週末になると郡山や福島に来て支援団体の下支えをして来ましたが、郡山・福島の仲間ともっと多くの時間を共に過ごし、私自身が貢献できることに全力で取り組みたいと思い、昨年春に会社を退職して郡山に移住しました。昨年1年間はふくしま連携復興センターで活動していましたが、様々な支援者につながる中で、みなさんが口々におっしゃる「福島には復興の担い手が足

りない」という言葉と、自分自身の「地域を良くする担い手が育つことに貢献したい」というもとの想いが結びつき、郡山の仲間とともに、この春から本格的に「コースター」としての事業を始めました。

コースターでは主に「研修」と「仕組みづくり」を事業として行っています。「研修」では、NPO職員や社会課題に取り組もうとする方を対象に、社会課題の解決や組織運営のための能力開発・知識提供・リーダーシップ開発を行っており、ビーンズのみなさんにも、個人的に何人かご参加いただいています。「仕組みづくり」では、自治体やNPOの職員の方とともに、複数の主体が連携した課題解決の仕組みと人材育成を同時に実施する協働事業づくりを行っています。このビーンズ通信が発行される頃には、30キロ圏からの避難者やその地域に帰還した方の支援を、ある自治体と協働で開始している予定です。ビーンズさんとも、福島の内外にいる若者が社会課題の担い

手になっていく「場」や「プログラム」を福島に創り出すプロジェクトを協働で開始しています。

今の福島での仕事は本当に大変です。課題の大きさに然然とすることもありますが、物事の進みの遅さに苛立つことも多いです。それでもこの1年、地域と福島の復興を想う素敵な方々と数多く出会い、一緒に事業に取り組める仲間にも恵まれました。何より、次の福島を次の日本を創る、苦しい中にも夢のある本当に充実した仕事に取り組んでいることに心から感謝しています。その意味で、東京での職を辞めて福島に来て本当良かったと、みなさんにはお伝えしたいです。

まだまだ未熟な私ですが、課題解決の仕組みづくりや職員の育成に取り組む方がいらしゃれば、ぜひ一緒にできればと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。

このコーナーでは、連携機関の取り組みをご紹介します!

これからの活動予定

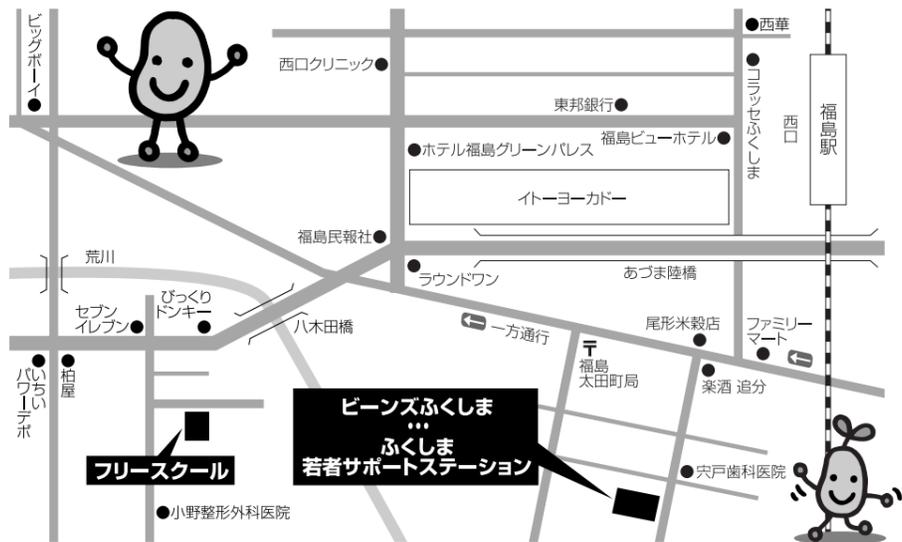
- 5月11日(土) ふくしまサポステ「家族の集い」
13:30~15:30 矢剣会館
- 5月25日(土) 「ビーンズ親の会」
13:30~15:30 フリースクール
- 6月8日(土) 特定非営利活動法人ビーンズふくしま 第11回総会
13:30~16:30 場所 市民活動サポートセンター(チェンバおおまち3F)
- 6月29日(土) 「ビーンズ親の会」
13:30~15:30 フリースクール

ご支援・ご寄付
ありがとうございました。
とまこまい若者サポートステーション様
手作りの木札ブロック

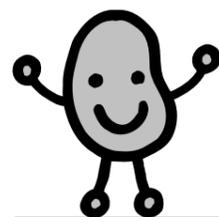


編集後記

4月17~18日にかけてビーンズ全体で合宿が行われました(!)。外部からファシリテーター2名を迎えることで、ビーンズを多角的にまた階層的に見ることが出来たように思いました。地理的に離れているスタッフが一堂に介して同じ時間を過ごすことの意味も実際に合宿が出来たことで実感できました。仕事のために集まっている人々というだけでなく、そこでみんな生きているのだと感じ、このチームを「大切にしていきたいなあ」と思いました。



●ビーンズふくしま <http://www.k5.dion.ne.jp/~beans-f/> ●ふくしま若者サポートステーション <http://www.fukusapo.org>



ビーンズ通信

Vol.57

●発行日/2013年5月10日

●発行元
特定非営利活動法人
ビーンズふくしま
〒960-8066 福島県福島市矢剣町22-5 2F
TEL&FAX 024-563-6255
URL <http://www.k5.dion.ne.jp/~beans-f/>
E-mail beans@k9.dion.ne.jp

NPO法人ビーンズふくしまは、不登校の子どもやひきこもりの青年などに安心できる居場所を提供し、1人1人に寄り添って、ゆるやかな社会参加を促し、その自立を支援する、若者支援の理念に基づいて事業を展開しています。

始まりは1本の電話から

「福島の子どもたちを大阪に招きたいんですが、いらっしゃいませんか?」という電話があったのは、2012年の暑い中でした。大阪にある「なわてコミュニティ風」の西山さんからの電話で、福島で生活している子どもたちに、大阪へ来てリフレッシュして欲しい、という内容でした。子どもたちにその電話の内容を話したところ、暑くてだらだらしていたはずのその場が大盛り上がり。「大阪行けるの?行きたい!」というその一言で、フリースクールの大阪行きが決定したのでした。

頼もしい経験者が4名も!

大阪といえば、以前青春18きっぷで大旅行をしたことがありました。その時参加していたメンバーが4名もいたので、彼らにも協力してもらって旅行プランを練っていきました。当然、行ったことがなくて、どんな風になるのか想像がつかないメンバーもいたりして。それでも「みんなで旅行をする」というのがとても楽しみ!な様子で準備が進んでいきました。よほど楽しかったのか、「いつ大阪行くの?来月?」なんていう会話も何度かありました(笑)。そんなこんなで、旅行当日。今回の旅行はなんと、飛行機での移動!(なわて

さんありがとうございます!)前回14時間かけて大移動した距離を、たった2時間で飛び越えてしまうのだから、飛行機ってすごい。飛行機初体験の子どももおり、ドキドキしながら大阪の地へ飛び込んだのでした。



色々な方との出会いがありました

大阪に着いた初日の夕食はたこ焼きです。しかもなんと、宿泊先のすぐ近くのたこ焼き屋さん「たこー」さんが、定休日だったにもかかわらず「ビーンズさんのために」と貸切で店を開けてくださいました。たこ焼きの焼き方まで教えていただいて、本当に楽しい時間を過ごさせていただきました。



また、別の方向のご近所にある「グリーンガーデン」さんにもお邪魔させていただき、砂栽培という農法で育ったみずみずしい野菜をたくさん分けていただきました。一緒に行った子が思わず、その場で食べてしまう姿が見られました。

他に色々観光にも行きましたが、大阪の地元の人との出会いにも恵まれた、とても素敵な旅行になりました。なわてコミュニティの皆さま、たこーさま、グリーンガーデンの皆さま、滞在中会いに来てくださった立川さま。本当にありがとうございました!(五十嵐)

若葉のいぶきを感じながら



NPO法人ビーンズふくしま 理事長 若月 ちよ

毎年この季節を迎えるたびに、自然の生命力の力強さと美しさを感じます。日に日に若葉の色を増し、日に日に変化していく山の色を眺めながら、いろいろなことがあっても自然はたくましくその営みを続けているのだと思わされます。

子どもたちや若者たちも、本来はそうなのだろうと思うのです。自ら育つ力を持っていて、その力で大きく育ちたい、自らの枝や葉を伸ばしたいと...

私たちは若者「支援」という言葉を使いますが、その使い方は適当ではないように思っていました。若者たちが自ら伸びていけるように、いろいろな意味での「土壌」を整えることが必要なのだと思うのです、社会という土壌を。そういう社会を創ることで、若者たちはきっと自ら育っていくことでしょう。

今年度もビーンズふくしまの活動を、そんな想いで展開していきたいと思えます。

サポステ新体制に

平成25年度を迎えるにあたって、「地域若者サポートステーション事業」(以下「サポステ事業」)はこれまでにない大規模強化が行われました。

大きくは、学校を対象としたアウトリーチ(訪問)型支援の拡充と、生活面・実習面の訓練を集中的に行う合宿型支援の拡充が挙げられます。これまでも関連事業として一部のサポステで実施されてきた上記支援ですが、25年度からは全てのサポステを対象として実施されることとなり(合宿型については希望サポステのみ。ふくしま、こおりやま共に実施予定はありません)、これまで以上に幅広い支援が要求される事業となったのです。

大規模強化に至った背景には、若者雇用を取り巻く環境が依然として厳しい状況であること、その中で事業開始後7年が経過しているサポステ事業が着実に実績を残してきていること等が挙げられます。また、昨年9月より実施された有識者会議「地域若者サポートステーション事業の今後のあり方に関する検討会(全5回)」の中で訪問型・合宿型の有用性や人材育成について話し合われたこと、昨年末に起きた政権交代なども重要な要素であることを付け加えておきます。

そんな全国的な動きの中で、県北、県中地域の県内2箇所のサポステを運営するビーンズふくしまが何を行っていくのか。地域の実情に合わせた理想の社会を目指し、25年度の事業をスタートしました。

ふくしま若者サポートステーション(県北地域)では、「整理して、つなげる」支援の拡大を目指します。具体的には、「就活サポート」、「同行サポート」、「学校サポート」の3つの柱です。

どの柱でも重要となるのが、若者のニーズを総合的に把握・整理し、適切な支援機関につなぐことです。困っている、迷っている若者が「何を(What)」困って、迷って“今”いるのか、そして「なぜ(Why)」そうになっているのかを、総合的な視点から把握・一緒に整理することで、将来への道筋が少しずつ確かなものになっていくのです。

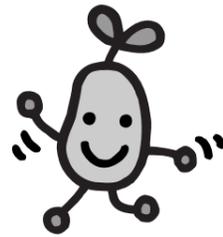
その効果を最大化するため、県北地域にある社会資源を活かしながら、若者が社会とつながり続け「ハッピーに生きられる」ためのサポートを、地域の皆様と共に創っていきます。

こおりやま若者サポートステーション(県中地域)では、学校等の教育機関との連携を強化し、更なる支援の拡大を目指します。具体的には「中退者の予防」、「中退者への早期的な支援」、「自身の可能性の拡大」の3つの柱です。

若者が社会的孤立状態になってしまう前に、その状況を未然に防ぐことこそが、本当の社会的課題の解決に直結していきます。地域住民や社会的サービス、若者の大切な居場所となる学校とを結びつなぎ役となり、彼らに自身の可能性に気づく様々な機会を提供していきます。「あの時、こんな進路もあると知っていたらば…」、「あの時、自分にこんな力があると気づいていたらば…」。そんな後悔を一人でも多くの若者にさせないために、自分の力で自分の道を切り開くサポートを、地域の皆様と共に創っていきます。

サポステ事業を通して、若者の可能性そして地域の可能性を拓くための活動を、これからも考え、実行し続けていきます。

作成:七海良郎



韓国の若者支援

視察報告

福島の若者の問題は、福島だけに起きていることではなく全国で起きている問題と同じ。「そんな福島の若者の課題解決に全国から力を貸したい」NPO法人全国若者支援ネットワーク機構のメンバーから、そんな声掛けをいただいたことが、韓国ソウル市視察へのきっかけでした。

今だからこそ「若者支援の福島モデル」を

福島から若者支援の新しい形を発信できたら…それを考えるきっかけとして韓国ソウル市「HAJA(ハジャ)センター」視察に行ってきました。

同行したメンバーは、北海道や東京・京都・大阪で若者支援をしている大御所の方々(佐藤洋作氏:NPO法人文化学習協同ネットワーク代表理事、穴澤義晴氏:札幌市青少年女性活動協会、立命館大学の山本耕平先生)等10名、福島からはビーンズふくしまのスタッフ5名を含む7名でした。

『HAJA(ハジャ)センター』を訪問して

韓国ソウル市が『HAJA(ハジャ)センター』を創立した背景には、1997年から始まったアジア通貨危機の影響がありました。多くの失業者が出、その子どもたちである青少年の行き場がなくなったのです。またそれ以前から、少数財閥による経済支配状況を反映した過激な学歴社会が「勝ち組」「負け組」を生み出し、画一的な教育への反発も現れていました。学校や家庭のほかに若者が活動する場の必要を強く感じたソウル市は、1999年延世大学に委託をし、官・民・学合同のプロジェクトである『HAJA(ハジャ)センター』を創ったのです。

HAJAは「やってみよう」「LET'S(レッツ)」という意味です。若者たちがやりた

いことをやってみよう、という取り組みができる場がHAJAセンターなのです。

HAJAセンターには、ニックネームをつける、という文化があります(もちろんスタッフも)。韓国社会は儒教の影響で、上下関係へのこだわりが存在したため、新たなプロジェクトに取り組むには、平等な関係が必要であり、「あだ名文化」が取り入れられたのです。

HAJAプロジェクトとは～フリースクールからインキュベーションへ～

HAJAセンターは、とてもワクワクする空間でした。残念ながら訪問した時はお休みで、子どもたち若者たちの姿はまばらだったのですが、手作り感あふれるあたたかな、活気を感じる空間でした。それぞれのプログラムを展開する部屋があり、カフェがあり、作業場があり…子どもたち若者たちが、関心を持ったところからいろいろなことを「やってみることができる」そんな場所です。特に、若者が興味を持ちやすい文化的な活動が多く、絵画・映像・ネイル・メイクなどの体験ができたり、自分たちの将来を考える講座や討論があったり、木工や農業、自転車工房にも取り組んでいました。職人や専門家と共に作業をしているのです。

HAJAセンターはそうしたフリースクール(代案学校と呼ばれていて、ハジャ作業場学校、錬金術師学校がそれに当たります)の部分と、そこからその学びを活かして創業する取組も実践しています。代表的な社会的企業として次の事業を紹介します。

◇「ノリダン」

パレード公演、劇場公演、海外公演、公共デザイン、教育事業などで大きな収益を上げています。

◇「オーガニゼーション ヨリ」

ケータリング・給食・カフェ・レストラン・教育事業など

◇「遠足に行く猫」

弁当会社…視察の際にお弁当をいただきました、おいしかったですよ

◇「ユジャ サロン」(悠々自適サロン)

ニート・ひきこもりの若者の、音楽を通じた集団・居場所づくりをしています。

その他にも、貧困層の子どもたちへの読み聞かせをやっていたり、旅行を取り上



げた事業があったり、リサイクル製品の販売、洋服のリメイクなど、様々な事業を実践しています。

HAJAの取り組みから見てきたこと

韓国のHAJAの取り組みは、それまで青年の「問題」としてとらえ、福祉の対象としての「青年」の失業対策として考えていたところから、社会問題解決の主体としての「青年」へと発想を転換してきたことです。

韓国ではある程度、超競争社会を戦ってきた、かなりレベルの高い層も「青年失業者」となっていることから、力のある若者層がHAJAの担い手となり、その取り組みが効果を上げていると考えられます。

また、韓国では社会的企業の起業に対する資金援助が手厚く、トライできる仕組みがあることも取り組みへのハードルを下げていると共に、企業の育ちを待つことができる姿勢を感じます。

そうしたことが、日本の若者支援との違いであり、仕組みの違いであると思います

一方ひきこもりへの支援は、韓国ではまだこれからで日本の方が進んでいることを知ることができました。

●●
今回は、HAJAセンターの他にも若者の活動を視察してきました。次回以降報告していきたいです。また、今回の視察を活かし、福島で若者支援をどう展開していけばいいのか、に関しても継続して掲載していきたいと思っております。

卒業と成長を祝う会

年度を締めくくる区切りの行事として、卒業と成長を祝う会が行われました。当日、子どもたちは、緊張した様子で卒業証書や歩み証を受け取り、一人ひとり、これまでを振り返って思いや、今の心境、そしてこれからの決意を、言葉にしていました。その顔は、また1つ成長し、少し大人びたようにも見えました。

立食パーティーでは、緊張も和らぎ、にぎやかに語らいました。保護者の方

やスタッフやボランティアさんが、一緒になって、子どもたちの成長を喜び合える、あの空間に居られたことが幸せに思えました。これからも、一緒になって見守らせて頂ければと思います。

文責 佐々木

